

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 0 6	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
<p>Prenatal maternal alcohol consumption and hospitalization with asthma in childhood: a population-based follow-up study. 出生前の母体のアルコール摂取と幼少期の気管支喘息による入院:住民を対象とした追跡研究</p>	
執筆者	
Yuan W, Sorensen HT, Basso O, Olsen J.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Clin Exp Res. 2004 May;28(5):765-8.	
キーワード	
気管支喘息、妊娠、アルコール摂取、追跡研究	
要 旨	
<p>気管支喘息は出生前に規定されるかもしれない。本研究では母体の妊娠時のアルコール摂取と子供の気管支喘息による入院との関連を検討した。</p> <p>方法： デンマークで 1984-1987 年に在胎期間 36 週以上の単胎出産で生まれた 10440 児を追跡調査した。母親は、アルコール摂取を含む生活習慣および社会経済因子に関する質問紙調査へ回答した。対象児の追跡調査は、デンマーク退院登録により行われた。気管支喘息との退院時診断がついた最初の入院を気管支喘息と定義した。</p> <p>結果： 81%の妊婦が妊娠中に少なくともいくらかのアルコールを摂取しており、2.1%が週 120g 以上摂取していた。追跡期間中に 307 人の子供が少なくとも 1 度は気管支喘息により入院していた (出生から 12 歳または追跡期間終了までの累積罹患率は 3.5%であった)。母親の社会経済因子、食品構成、飲酒以外の生活習慣を補正したうえで母体のアルコール摂取と子供の喘息による入院との関連を検討した結果、非飲酒妊婦から生まれた子供に対する飲酒妊婦から生まれた子供の喘息入院の相対危険度は 0.95 (95%信頼区間: 0.70-1.29) で、有意な関連を認めなかった。飲酒量やアルコールの種類、多量飲酒についての検討も行ったが、児の気管支喘息入院とは関連しなかった。</p> <p>結論： 本研究では、妊娠期間中のアルコール摂取と幼少期の気管支喘息との因果関係は示唆されなかった。</p>	